

SDGsを目指す農林水産業の未来のために

近畿大学アグリ技術革新研究所 第33回オープンセミナー

2024年8月6日（火）

13：30～15：00 ポスター発表

近畿大学農学部 **203**教室

同日行われる知恵の輪プロジェクト大学院生交流会・
ポスター発表会（8月6日開催：209号室 10:00～）での
「キャリアパスを考える」にも登壇されます。

学生無料
申込不要

教員の方は知恵の輪PJ
「優秀発表賞」への
寄付（1000円）をお
願ひしております。

「線虫の胚発生過程における転写活発な クロマチン領域の形成」



講師 | 市原 沙也 博士

国立遺伝学研究所・遺伝メカニ
ズム系・細胞建築研究室
特任研究員

多細胞生物の個体発生の過程では、細胞種や時期特異的な遺伝子発現が重要である。このような遺伝子発現の制御には、クロマチンが多様な高次構造をとることが重要だと考えられる。私は現在線虫*C. elegans*を対象に、胚発生過程でどのようにクロマチンが組織化されるのかを研究している。受精直後のクロマチンは比較的均一な構造をとっていると思われるが、胚発生過程で徐々に核内のクロマチンは組織化され不均一な分布、構造をとる。胚発生過程でどのようにクロマチンが組織化されるのかを理解するために、我々は転写伸長型のRNA polymerase II (RNAPII S2P) を特異的に可視化可能な細胞内抗体プローブであるmintbodyを用いて、発生過程での転写レベルの推移や、転写が活発なクロマチンの空間分布を観察、定量化しつつある。本発表では最新の解析結果について報告・議論したい。

世話人 | 細川 宗孝（近畿大学アグリ技術革新研究所 教授）

お問い合わせ | mune@nara.kindai.ac.jp